

## 伊藤勇剛先生の御逝去を悼む

本学法学部教授伊藤勇剛先生は、2004年4月16日病のため永久の眠りにつかれた。

先生は、昨年秋頃からお疲れのご様子で、冬に入ってからのご病状がかなり進んだようにお見受けした。今から思えば、既にそのころには病魔が先生の身体をむしばんでいたのであろう。しかし、先生は、学生に迷惑はかけられないと、休養されることなくお仕事を続けられた。今年2月秋学期授業終了と同時に入院され、治療に専念されることになった。しかし、4月には教壇に立ちたい、ライフワークも完成したいと、たいへん意欲的なお話をうかがわせていただき、本学部の教職員一同先生の御快復を信じ、祈念していた。しかし、願いむなしく、ついに帰らぬ人となられた。まことに痛恨の極みである。

先生は昭和41年3月早稲田大学第一法学部を卒業され、直ちに同大学大学院法学研究科民事法専攻修士課程に進学され、昭和43年3月に同課程を修了された。関東学院大学、中京短期大学に御奉職の後、平成2年4月学部開設を機に本学法学部に教授としてお迎えした。開設後間もない学部の基礎作りに御尽力いただくとともに、本学の発展のために多大の御貢献をしてこられた。

先生は商法、特に会社法の分野で活発な研究活動が続けられ、商法学の発展に大きな貢献をされた。「会社経営機構の法的諸問題」をテーマとされ、御著書『経営者責任の法的基礎 ―経営上の判断を中心として―』をはじめとして、多数の御論文を世に問われている。最近では、21世紀における会社経営機構の合理化と効率化のためのシステムを法的観点から検討される御論文を公表しておられ、つねに新鮮な問題関心を持ち続けてこられた。

先生は学生をこよなく愛しておられた。ゼミの学生に対しては、熱心に勉学の指導をされるほか、コンパや合宿、保津川でのバーベキューなど、学生との交流の場を自ら先頭になって用意しておられた。先生のゼミ希望者がいつも定員をはるかに超える状況であったのもうなずける。卒業生は「伊藤同門会」を

結成し、定期的に先生と懇談の場を持ち続けている。また、講義では、専門分野の内容をわかりやすく伝えられるだけでなく、「夢を持ちなさい」とつねに語りかけ、学問と人生の先輩として学生の厚い信頼を受けておられた。

先生の残されたお教えは、多くの教え子や私どもの心の中にいつまでも生き続けるであろう。先生に限りない敬愛と感謝の念を捧げ、心からの御冥福をお祈り申し上げる次第である。

2004年9月

京都学園大学法学会

会長 立石 雅彦